



令和2年度 宿利原小学校だより

# 宿っ子

11月号



学校のホームページは上のQRコードからお入りください



## やどたろうの鬼退治 "We are good friends."

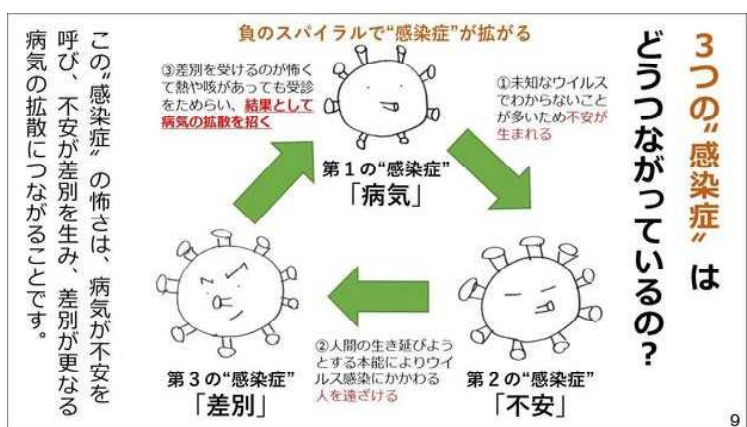
～ 人権週間に向けて ～ 校長 有留 盛昭

今年の「やどりはら秋まつり」は、規模を縮小しての開催でしたが、たくさんの地域の皆様にご来校いただきました。大勢の観客を前にこれまでの練習の成果を發揮できた子供たちは、手応えを感じ、それぞれに成長を遂げることができたと思います。ありがとうございました。裏面に紹介してありますが、今年の食農体験劇は「やどたろう」でした。

桃から産まれた桃太郎は、きびだんごでイヌ・サル・キジを家来にして、鬼を退治します。しかし、大きな大根から産まれた「やどたろう」は、イヌ・サル・キジの得意なことを見せてもらい、そのお礼においしい大根を贈ることで仲間になります。おそろしい鬼に対しては、正々堂々と(じゃんけん)勝負をして、最後はおいしい大根を贈ることで、仲良くなります。鬼も含めた全員で「We are good friends!」と言いながら行進する様子は、宿利原小学校の子供たちらしさをそのまま表現しているようにも思いました。

さて、日本の昔話には鬼がよく登場します。一般的に鬼は、普段の生活を脅かす得体の知れないものの象徴として登場することが多いようです。時には、災害であったり、流行病(はやりやまい)であったり、山賊や盗賊であったりと、鬼にはいろいろな姿があったようです。正体が分からないから、人々は不安になったり怖くなったりするのです。鬼の弱点が分かれば、鬼は怖いものではなくなります。苦手な柊(ひいらぎ)や鯛(いわし)を玄関に飾ったり、豆をまいたりすることで撃退できる鬼もいるくらいですから。

11月半ばから新型コロナウイルスの新規感染者数が急激に増えていきます。この冬の寒さや乾燥する季節を迎えて、各種報道やメディアで「第3波」という言葉が耳に飛び込んできます。この感染力が強いウイルスに効き目のある薬は、まだしばらく私たちの手に届きそうにありません。自分たちにできることを続ける事が大切です。この病のことを正しく知り、不安な気持ちに振り回されることなく、自分もまわりの人も大切に作る行動をとりたいものです。一番怖いのは、「感染しているかもしれない。でも、言い出せない。」状況を作り出すことです。



日本赤十字社「恐怖から負のスパイラルが広がる」より

「やどたろう」は、周囲に安心感を与え、みんなで歩む方法で鬼退治をしました。

「We are good friends. Let's go straight together.」(みんな仲間だ。一緒にまっすぐ進もう！) 12月10日は「世界人権デー」宿利原小学校では11月30日(月)から12月7日(月)までを校内人権週間として様々な人権問題について考えます。

※やどりはら秋まつりの様子は、YouTubeの「チャンネルやどっこ」にアップロードしてあります。